



CONTENTS

株主の皆様へ	1
特集	
5つの事業フォーメーションを軸に 総合力を強化	2
トピックス	3
社会とともに	4
事業概況(連結)	5
中間連結財務諸表の概要	7
中間個別財務諸表の概要 / 会社概要	9
株式の状況 / 株主メモ	10

(注)表紙の919,226,835個は宅急便とクロネコメール便を合計した小口貨物の取扱実績(2003年4月から9月までの累計)を表しています。

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社第139期上半期(平成15年4月1日から平成15年9月30日まで)の中間事業報告書をお届けするにあたりまして、ひとことご挨拶申し上げます。

当上半期の連結営業収益は、4,843億円で、前年同期比5.0%増となりました。長引く個人消費の低迷に加え、郵便事業の公社化など当社をとりまく経営環境は厳しさを増しております。このような状況ではありますが、サービス第一の精神に基づき積極的な営業展開を行い、各部門とも堅調に推移いたしました。デリバリー事業においては、インターネットを活用した新サービスの提供や営業所の多店舗化などお客様の利便性の向上に取り組んでまいりました結果、堅調に推移いたしました。特に、4月にリニューアルを行ったクロネコメール便は好調に推移し、営業収益に大きく貢献いたしました。その他の事業におきましても、中期経営計画に基づき事業再編を積極的に行いグループの総合力強化をはかってまいりました。

一方で、宅急便事業の構造改革を行い、小集団化による自主自立的な組織への革新、事務処理の効率化など、将来への成長に向けて努めてまいりましたが、この構造改革によるコスト増とクロネコメール便に関わる費用増により、連結の経常利益は170億円で、前年同期比32.3%減となりました。

なお、中間配当につきましては前期と比較して1円増配の1株当たり8円とさせていただきます。

下半期は、引き続き宅急便事業を中心とした構造改革を着実にすすめ、中長期的な成長力・競争力・収益力を強化してまいり所存でございます。

これらにより、通期の連結業績については、営業収益は前期比3.5%増の1兆60億円、経常利益は前期比25.6%減の435億円を計画しております。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成15年12月

取締役社長 山崎 駕